

新年を迎えて

オリンピックイヤーの幕開けにあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、日本各地で開催されたラグビーワールドカップが大きな盛り上がりを見せました。茨城国体では、選手発掘育成事業「京都きつず」の出身者の活躍などにより、京都府が総合八位を獲得し、七年ぶりの入賞を達成しました。今年も多くの京都府ゆかりの選手がオリンピック・パラリンピックをはじめとする大舞台で活躍され、大人も子どももスポーツを楽しむ気運が広がることを期待しております。

オリンピックのチケットを申し込んだり、試合結果をいち早く確認したり、現代ではスマートフォン一つで様々なことが可能になりました。しかし今、AI等の進化により、私たちをとりまく社会は予測を大きく上回る速度で変化しています。子どもたちには、社会がどのように変化しようと自分の力で考えて生きぬいていく力、他者と協働して社会の課題を解決できる力を身につけさせることが必要となっており、そのためには、これまでの知識を重視した画一的な教育から、新たな価値を創造できる多様性のある教育へと、抜本的な改革を進めていかなければなりません。

今春から小・中・高と年次進行で全面实施を迎える新学習指導要領の趣旨も踏まえ、府教育委員会では、地元企業や大学のご協力を得て、中学生の課題解決型学習のモデル事業に着手しました。学びの場を教室の外にも広げ、地域の課題を知り、社会に出たときに直面する「答えのない問い」に取り組ませることににより、子どもたちの学びを深めるとともに、社会性を豊かにし、地域への愛着もはぐくんでいきたいと考えております。

府立学校では、全校のICT環境の強化を開始したところですが、国においても小中学校における一人一台の端末の配備や情報通信網の整備を打ち出されました。ICT環境を基盤とした先端技術の活用により、情報活用能力を身につけさせるだけでなく、効率的・効果的な集団学習や生徒一人一人の能力に応じた個別学習など、多様な教育が展開でき、学びの世界をより豊かにすることができそうです。四月に開校する丹後の新設高校においても、学舎間のみならず国内外の大学や企業とも繋いで遠隔授業を行うなど、その活用に努めてまいります。

また、AIにはない人間らしさとして、感性を磨き、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけさせるため、「子どもの読書活動推進計画」の改定も進めております。府立図書館では、市町村立図書館や学校だけでなく、子ども食堂や、不登校の子どもを受け入れるフリースクールにも図書の貸出を開始しました。すべての子どもたちがいつでも気軽に読書に親しむことができる機会の確保に、引き続き努めてまいります。改正文化財保護法に定める「文化財保存活用大綱」についても、今年度中に新たに策定することとしております。地域の文化財が愛され、誇りとして適切に保護・継承されるよう、本物の伝統文化に子どもたちが触れられる京都府ならではの強みを活かしてまいります。

いじめや不登校、貧困問題など、子どもたちをとりまく様々な課題と向き合い、誰もが安心して学べる環境づくりに引き続き努める一方で、急激な社会状況の変化を見据えたこのような教育改革を強力に推進していくためには、教育に関わるすべての方々に、新しい時代の教育ビジョンを明確にお示しする必要があります。「京都ならではの教育」の推進に向けて新たな「京都府教育振興プラン」の検討に着手しており、今後、学校現場で実践に当たる教員はもとより、保護者や地域、市町（組合）教育委員会、教育関係団体など、多様な皆様のご意見をお聞きすることにより、ご理解とご協力を得られるものにしていきたいと考えております。

「新京都府総合計画」等に掲げられた「子育て環境日本一」の実現のためにも、府域の教育の質の向上は不可欠であります。次代を担う子どもたちが幸せな未来の創り手となれるよう、時代と社会の要請に応じた新しい京都府の教育に全力で取り組んでまいります。

結びにあたり、皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

令和二年一月